
天使とか悪魔とかが出てきたりするお話

黒雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使とか悪魔とかが出てきたりするお話

【Nコード】

N8914S

【作者名】

黒雲

【あらすじ】

主人公が死んで、よくわからん学園にたどり着いて、天使とかと一緒に、悪魔と戦うお話です・・・ たぶん

処女作なので駄文ですがよろしくお願いします

生き死に連鎖

ある快晴の日に、僕は母に言われた。

「実はあなたは家の子じゃないの」・・・と

薄々感ずいていたことだったから別段驚きはしなかった。しかし僕は。

「そうか、なら僕は家を出るよ」

正直思ったうわぁ言ってしまったでしょう。

そして、今僕は、ただ一人横断歩道の前に立ち尽くしていた。

信号が青になる僕は早く渡ろうとせかせかと歩き始める、それがいけなかった。普通の車より少し大きな車・・・まあキャンピングカー位かなそれが突然、信号を無視して曲がってきた猛スピードで突然全身が宙に舞う感覚をおぼえる。

「おい、人がひかれたぞ!!」

ドサッ グチャ グロテスクな音が辺りに響く。

「ひき逃げだ!!」

「ナンバー見たやついるか!？」

そんな声を聞きつつ、僕の意識は、闇へと堕ちていった

少年↓少女

目が覚めるとそこは、ただ白く、白く、そして、ひたすら白い部屋だった。

ここがどこなのか、そう思っていると目の前には少女がいる。ん？いや少女というよりは幼女だなこれは。小学一年か二年位の幼女が佇んでいた。

「あの・・・ここは、一体？」

まあとりあえずは、先にそれを聞いておかないと、ていうかまじでここはなんなんだろう、これでこの幼女が神様だとか行ったらテンプレ過ぎて大笑いしてやる、僕は本気だから絶対おおわらいしてやるよ。

「おまえは死んだ。おまえは下僕となる資格があるから連れてきた。ここは天上界にあるわたしの家だ、そして・・・」

まさかそんなことはないよな、さっき僕が妄想してたみたいなことにはならないよな。そうか、これはきつと夢だ、さっきひかれたときから気絶してるだけできつとこれは夢だ。はい決定、これは夢、夢なんです。

「私は神だ！！」

「嘘だ！！」

僕は、大笑いするとか何とか言ってたのも忘れて、某鈍少女もびっくりな声で叫んでみた。だってこんな幼女の戯言が信じられるかってんだよ。

「なぜ嘘だと思う、というかなぜ嘘をつく必要がある？」

「マジなんですか？これは夢じゃないんですか？ていうかやっぱ僕死んだんですか！？」

「うん、即死だったね。車に引かれてぽっくり死にました。さらにはひき逃げされてましたね。ふうあいつを育てた親の顔が見てみたいわ」

妙に落ち着いてやがるこいつ。てかちよつとまでよ最初のほうでこいつはなんていったんだ。たしか。下僕がうんたらっていつてなかったか？もっかいきいてみようか。

「すみません、最初のほうもういちどお願いします。」

「ん？しかたがないな？もっかいだけだぞ？」

ここでこいつ間違えたりしないだろうなあ

「私は神だ！！」

「いやいやそっちでなくてもうチョイ前のほう」

やっぱ間違えやがったか、ここにきてから妙に勘が鋭くて困る。

「もうちょいまえつと、ああ、これか？おまえは死んだ。おまえは下僕となる資格があるから連れてきた。」

「そこですそこ、下僕ってどういうことですか？」

「ん？天使のことですがなにか？」

「そもそも、僕はどうなるんですか？」

「天使になります、はい」

「一応聞いておきます僕に拒否権というものは？」

「ありません、天上界も地上界も地底界も、魔界以外は全部私の独裁政治ってやつなんです。だからあなたに拒否権は、ありません」

「僕に何かメリットは？」

「ありません、強いて言うならば、あなたがもといた世界に帰れる、それだけです」

「最後です。僕は、何をする事になるんですか？」

「悪魔と戦ってもらうだけです。」

幼女はにやりと笑う、それは、無邪気な子供の浮かべる笑みではなかった、それで初めて、ああこの人は本当にただの幼女じゃないみたいだなとおもっていた。

「じゃあがんばってください天使アマツカ ヒナコ 雛子さん」

「……はい？」

「だから、あなたは天使 雛子になるんです。面白いから転生後は、女の子にしてみたんだけど、どうかなあ？」

「いやいやいやいや、いやでしょふう、ちゃんと考えて行動してくださいよ、この幼女神が」

「……ん？なんだった？」

しまった本音が出てしまったつい幼女っていつてしまったいや怖いよ幼女さん、目が笑ってないよ!？」

「よし、腹が立ったから。道を歩けば必ず一日五回は、なんぱされるような容姿にしてやろう」

いやいや見た目がいいってのはよしとしてナンパのほうはいらないですから。

ってなんですかねこの足元の穴は、これで下りろと？

「それでは、天使ちゃん、いつてらっさ〜い」

「うわあああああああああああああああああああああ〜」
辺りには絶叫する少女の声が響き渡る

「フフフ……せいぜい最後まであがいてくださいよ?」

天上界では、黒い羽の幼女が笑い続ける

時は金なり

[illegible]

現在、僕（元少年A 現天使少女A）は重力に任せて上空から自由落下しているとあります。

「・・・ってやばいやばい地面まであと100mないんじゃないか？落ちたら死ぬよな？これはつまり死ぬよな？どうがんばっても死ぬよ」

はい地面に直撃また死んだか……僕は何回死ねばいいんだろうそして幼女神は何を考えていたんだろう。そう思いながら立ち上がる。「生きてる？……え？僕……生きてる？あつれー絶対死んだと思ったのになー、幼女神ぶん殴ろうと思ったのになー」

ふと自分を見る。身長一だいたいあの幼女神とおんなじくらい
「……………おい…………あのロリゴッドは馬鹿なのか？阿呆なの
か？自意識過剰なのか？馬鹿なのか？馬鹿なのか？馬
鹿なのか？馬鹿なのか？馬鹿なのか？馬鹿なのか？馬
鹿なのか？馬鹿なのか？いや馬鹿なんです、はい決定、馬鹿、あ
の幼女は馬鹿」

と現実逃避をしていると。やっぱいるんですねロリコン、幼女誘拐とか結構あるからねこの時代。

「きみ、飴あげるから、お兄さんたちのおうちに来ない？」

「おまえどんなロリコンだよWWW」

「チツ、女かよ、俺は男がよかった」

とかいってるロリコン＋特徴のない人間＋簡単に言うとかホモという訳のわからん三人組が。さっきも言いましたけどやっぱいるんですねこんなごみ人間、見た目小学生・・・たぶん、大体一年生位。よかったですな幼女神、君の言っていたことが事実になってしまったよ。

というか僕はまだ精神的には男なんで三人目が一番怖いんです。

ということでは逃げましょう。僕は今は幼女ですし、転生前もただの一般peopleですから。武術的なことは一切できません。だからひたすら走れ。走れメロス。

ダッ

「逃げたぞ、追いかける」

「追いかけるほど幼女好きとかwww」

「俺は女には興味ない」

とかいいながら追っかけてくる。えっなに二人目比較的常識人？あと三人目怖い、みためが男のときだったら逃げきれた自信がない。やばい、捕まる・・・そう思った。だから本当に全力で走った、いや本当ですよ、こればかりは、メロスもびっくりなくらい必死でした。

僕はふと後ろを見る。あいつらが、追ってこなくなったからだ。

さらに、僕はふと気づく。10秒ほど前、逃げ切れないかもと思っただけから、一切の音がない。いや違う、これはただ、僕以外のものに、一切動きがないだけだ。

そうだ、まるで僕以外の、全ての時間が止まったかのように。

時は金なり（後書き）

どうも黒雲ですついやってしまいました、僕っ娘少女。

違います、僕は悪くないんです、悪いのは自分が可愛いとか思ってるようじょし「おまえなんかいったか？」い．．．いえ何でも？たぶん次かその次かで主人公のスペック他を説明します

能力が発覚したり、orzが多かったりする話（前書き）

今回からサブタイの書き方変えます

能力が発覚したり、O R Zが多かったりする話

なんでだろう、変態が追っかけてこない。

まあいいか、逃げられたんだし・・・と僕は思っていました。

でもよく考えたら、僕はこんなところに来たことなんてなかったんです、つまり。

[illegible]

まずいんです、やヴあいんです。

とまあ、街中を走り回ってたらですね。

突如立ちはだかるなぞの青年。

また変態か！？と驚愕する僕。

「君は、どうやら、元NPCのようだね」

「はい？」

よかった、変態団の一味じゃなくてよかった。

いやいやいや、ちよつと待てNPCってなんだ？

「ああNPCが何かって？ほらゲームとかでNPCっているだろ？」

だからそれを真似て、何の力も持たない人間……もつとも、学園に
いる人のほとんどは、生前にも、何らかの力があつたみたいだが。

とにかくただの人間や、能力持ちの生きてる人のことを、ここでは
ノンパスワードキャラクター
NPCと呼んでるんだよ」

長ったらしいご説明ありがとうございました。

ついでにもひとつ

「はい、学園って何ですか」

「僕たちみたいな、転生者が集まる場所だよ」

あとラスト一個

「僕の容姿は変化しますか」

「いいえ、見た目の年齢とかは一切変わりません。あと寿命では死にませ．．．ってどうしたの」

僕の現在の体勢がわかるだろうか。そう、紛れもないorzだ。

「まあいいや、とりあえず君を学園に案内して。そのあと、能力を調べようか」

「はい、お願いします」

自分でもわかった、僕．．．泣きそうな声だったなホントに。

まあなんだかんだで、学園とやらにつきました。

寮の番号は666号室です．．．うわっ縁起わるっ。

で、なんか変な機械に入れられました。

僕のがわかりましたゝわゝい。

能力名 現実逃避

内容 指定したものにかる、あらゆる法則とか常識とかを、いじったり、無効化したり、変更したり、適用する位は役に立ってく

れるはずの能力。

能力名・・・そこで僕は本日二度目のorzポーズをとることになった。

っとまでよ？法則を無効化できるのなら、見た目と性別を、変えられるのでは？

ってい・・・ちょうどそこに鏡があるな、よし、見てみよう。

「なんじゃーこりゃー!!」

そこには、高校生くらいの、容姿端麗な少女が映っていた。

さっき案内してくれた人がかなり驚いてた。

後いつの間にか、ポケットに入ってた携帯にメールが来てた

f r o m 神

件名 残念だが

本文 お前ならやると思ったので、性別は変えられないようにしておいた^^

あの神、次あったらぶっ殺す。

能力が発覚したり、orzが多かったりする話（後書き）

やったね。雛子は可愛い幼女から綺麗な少女に進化したよ！！

設定 重要人物 ネタバレアリ（前書き）

ネタバレアリそのうち明かしていくつもりなので、見なくてもおk

設定 重要人物 ネタバレアリ

一人目本作主人公

転生後の名前あまつか ひなこ天使 雛子

生前の名前はるづか おうぎ春塚 桜戯

能力名 現実逃避

概要 指定したものににかかる、あらゆる法則とか常識とか

を、いじったり、無効化した
り、変更したり、

適用する位は役に立ってくれるはずの能力。

備考 町を歩くとナンパされ、逃げて迷ってナンパされを

繰り返す能力？を神につけられ
た……

悲惨

生前の記憶が高校からしかないらしい。なぜ記憶が

ないかはそのうち明らかにな
るはず

享年17歳

二人目………幼女

名前 ようじょしん幼女神

生前の名前 はるづか ひなこ春塚 雛子

能力名 輪廻裁判

概要 不老不死かつ死んだものを束ねるおよび死んだもの

を地獄→天国→即転生→天使化→
悪魔化させ

たりする位は役に立ってくれるはずの能力

備考 今の天使は彼女の死んだときの姿と同じだった、だ
アマツカのほう

からその姿になっ
たときにアマツカは違和感を覚え

ていたが、上記のように記憶がないため、それが誰の

いつの姿かわからなかった。

桜戯の実姉 生前の記憶が一切ない。

死後はかなりの外道になっている。

簡単に言う人と人を悪魔、天使と分けて闘わせて楽し

んでいる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8914s/>

天使とか悪魔とかが出てきたりするお話

2011年10月9日01時26分発行